

ECO-200とSanacide - EPの併用効果

医療法人 蒼龍会 武蔵嵐山病院¹⁾
埼玉医科大学国際医療センター MEサービス部²⁾ ,
埼玉医科大学 保健医療学部 ³⁾

坂野進一¹⁾
篠田香織¹⁾ , 黒岩弘樹¹⁾ , 北菌力生¹⁾ , 塚本 功²⁾ , 山下芳久³⁾
清水淳¹⁾ , 西野義親¹⁾ , 菅野龍彦¹⁾

目的

透析装置の洗浄・消毒方法として、
ECO-200とSanacide - EPの併用による効果を
検討した。

当院の消毒・洗浄方法

DAB-E(日機装社製)とDCS-26(EF-01なし)・27(EF-02あり)(共に日機装社製)を下記の方法にて洗浄・消毒を行った。

自動運転工程


水洗(30分) 薬液消毒または酸洗浄(30分) 滞留
水洗(60分) 液置換(30分)

ウィークリータイマー

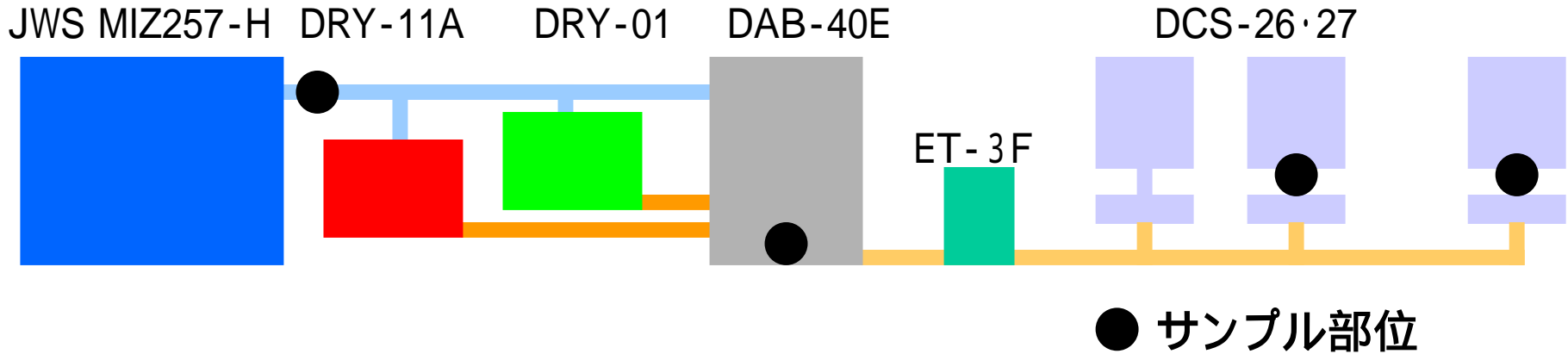
月 火 水 木 金 土 日



 ECO-200(末端次亜塩素酸Na濃度300ppm)

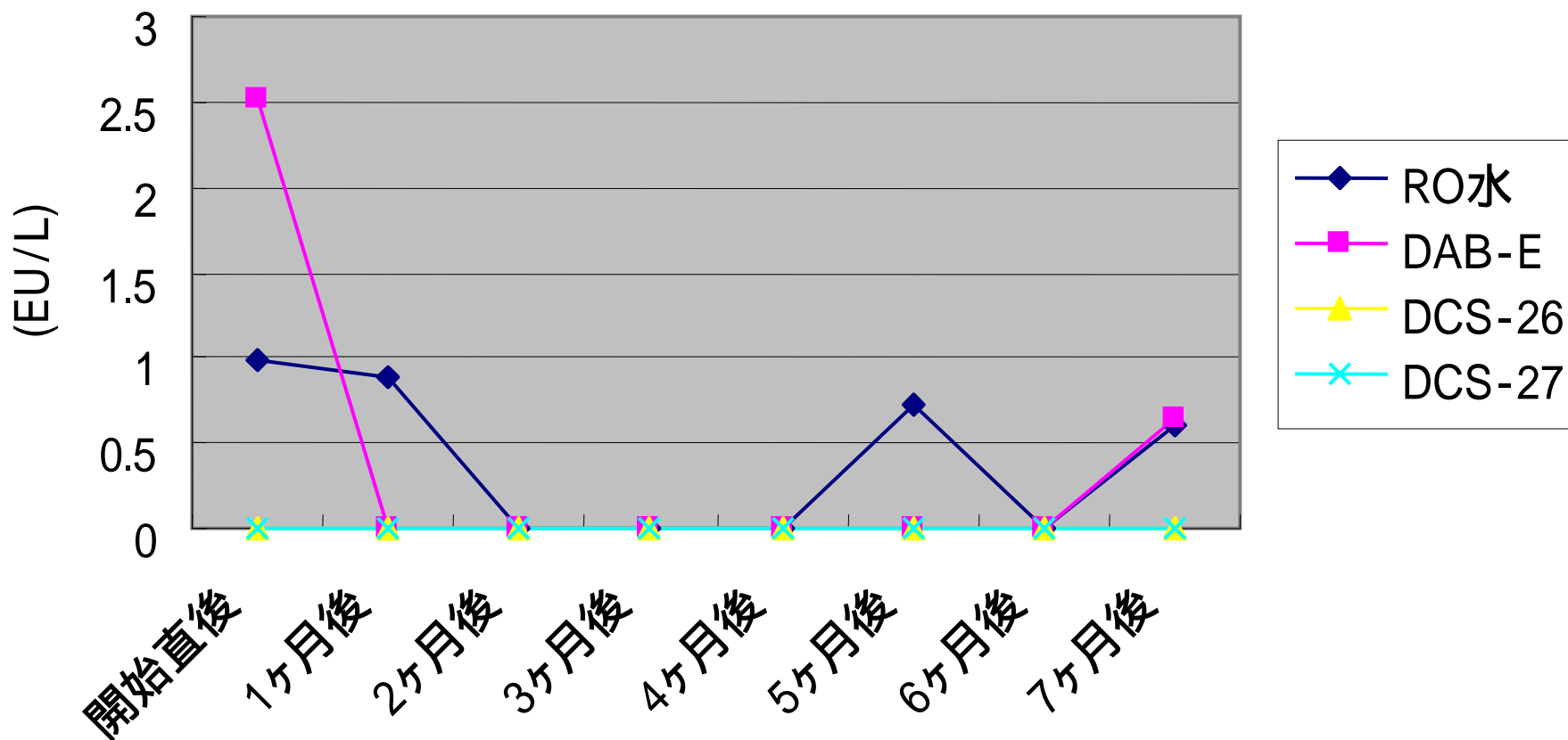
 Sanacide - EP (原液50倍希釈)

方法

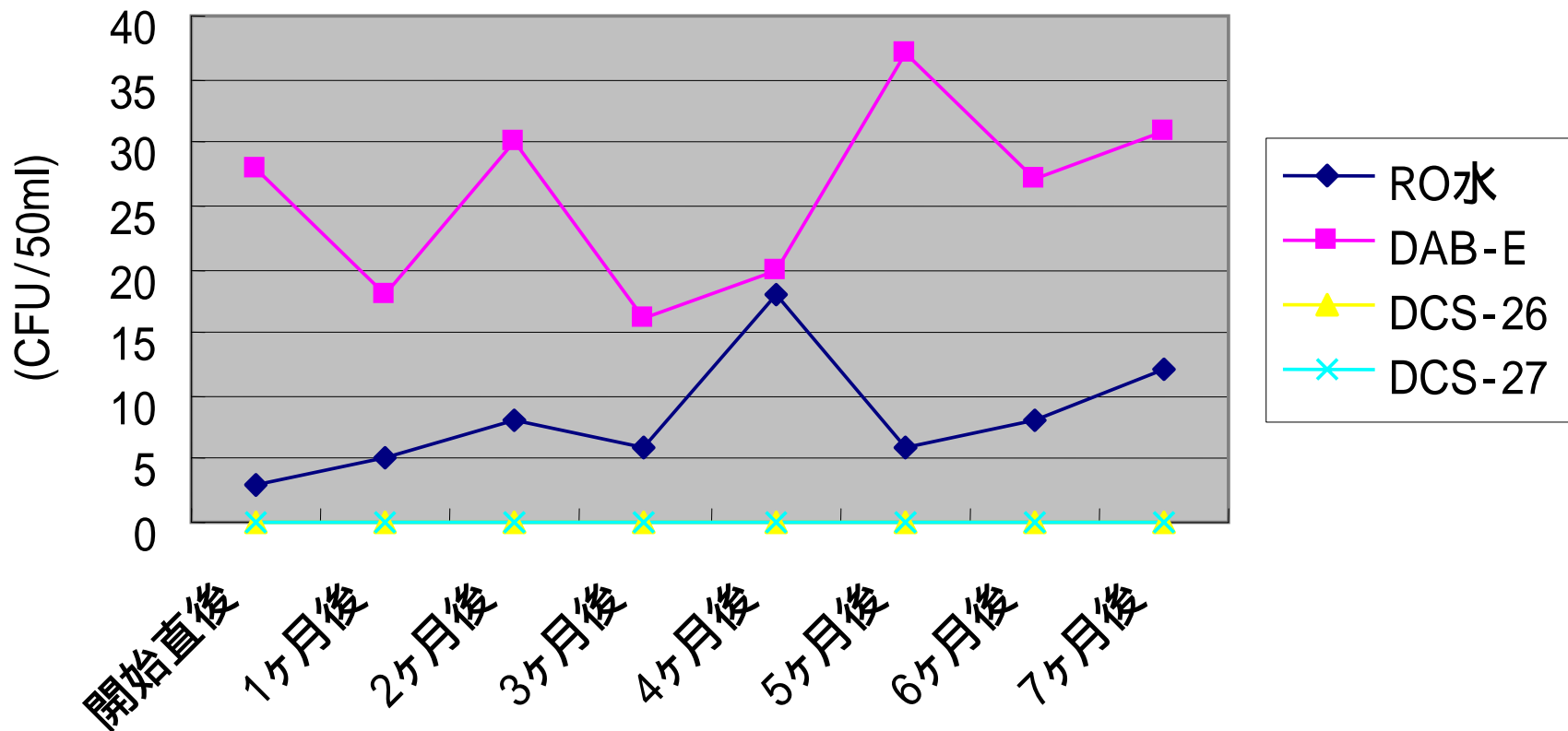


- (1) 上記のサンプル箇所からET値と生菌数を測定した。ET値はトキシノメーターミニ(和光純薬工業社製)、生菌数は37mmクォリティーモニター(アドバンテック社製)を使用した。
- (2) DCS-26・27はUFRC自己診断および装置内部を観察した。
- (3) DCS-27末端のシリコンチューブを実体顕微鏡にて観察した。
- (4) 各消毒剤の水洗時における残留濃度を3回ずつ確認した。

ET値の変化

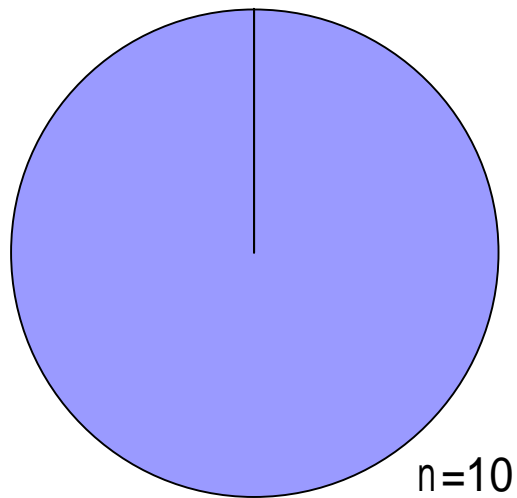


生菌数の変化

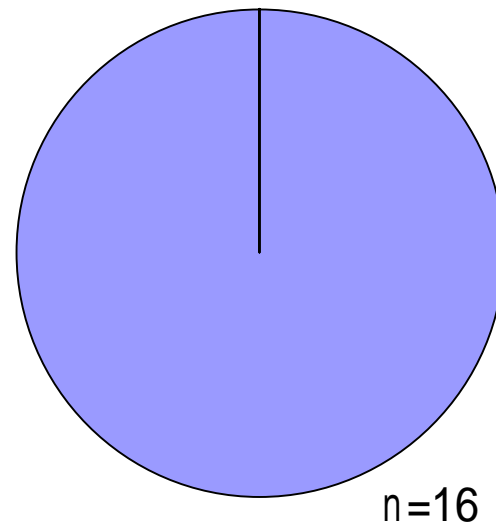


測定条件(温度:25度 培養期間:7日間)

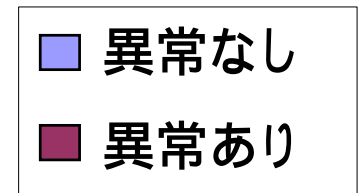
自己診断の結果



DCS-26



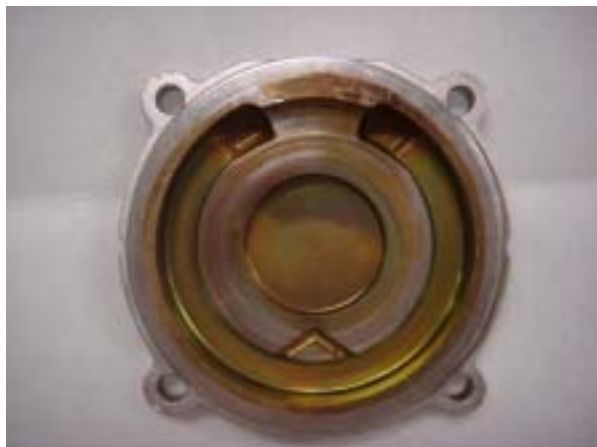
DCS-27



(7カ月間)

金属部品を目視 (DCS-26)

開始前



3ヶ月後



6ヶ月後



金属部品を目視 (DCS-27)

開始前



3ヶ月後



6ヶ月後



この後にガーゼでふき取り

シリコンチューブの観察(1)

透析液出口

透析液戻り口

ポンソー3R(蛋白質)



ズダンブラックB(脂質)



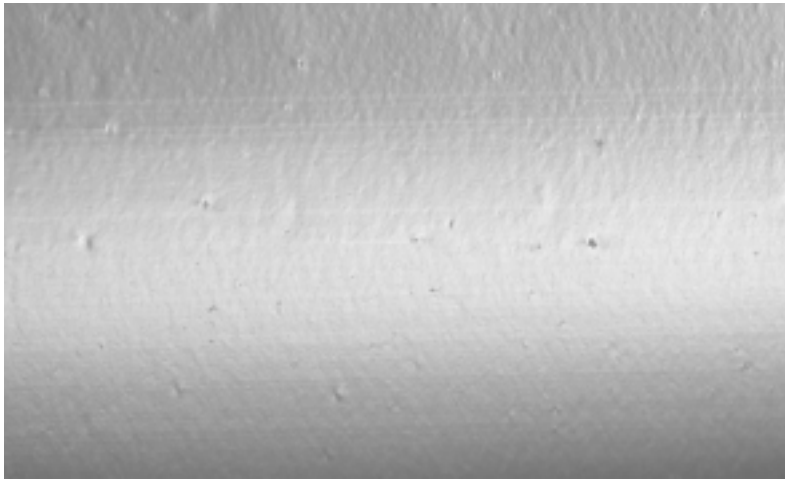
PAS(糖鎖)



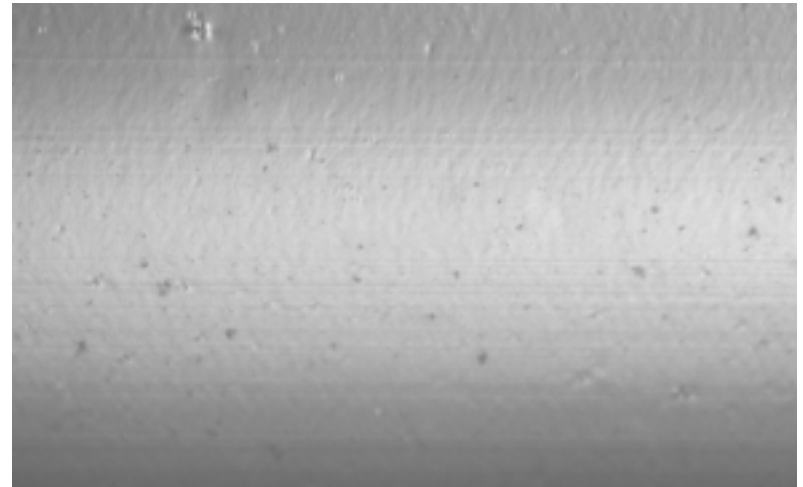
(6ヶ月後)

シリコンチューブの観察(2)

透析液出口



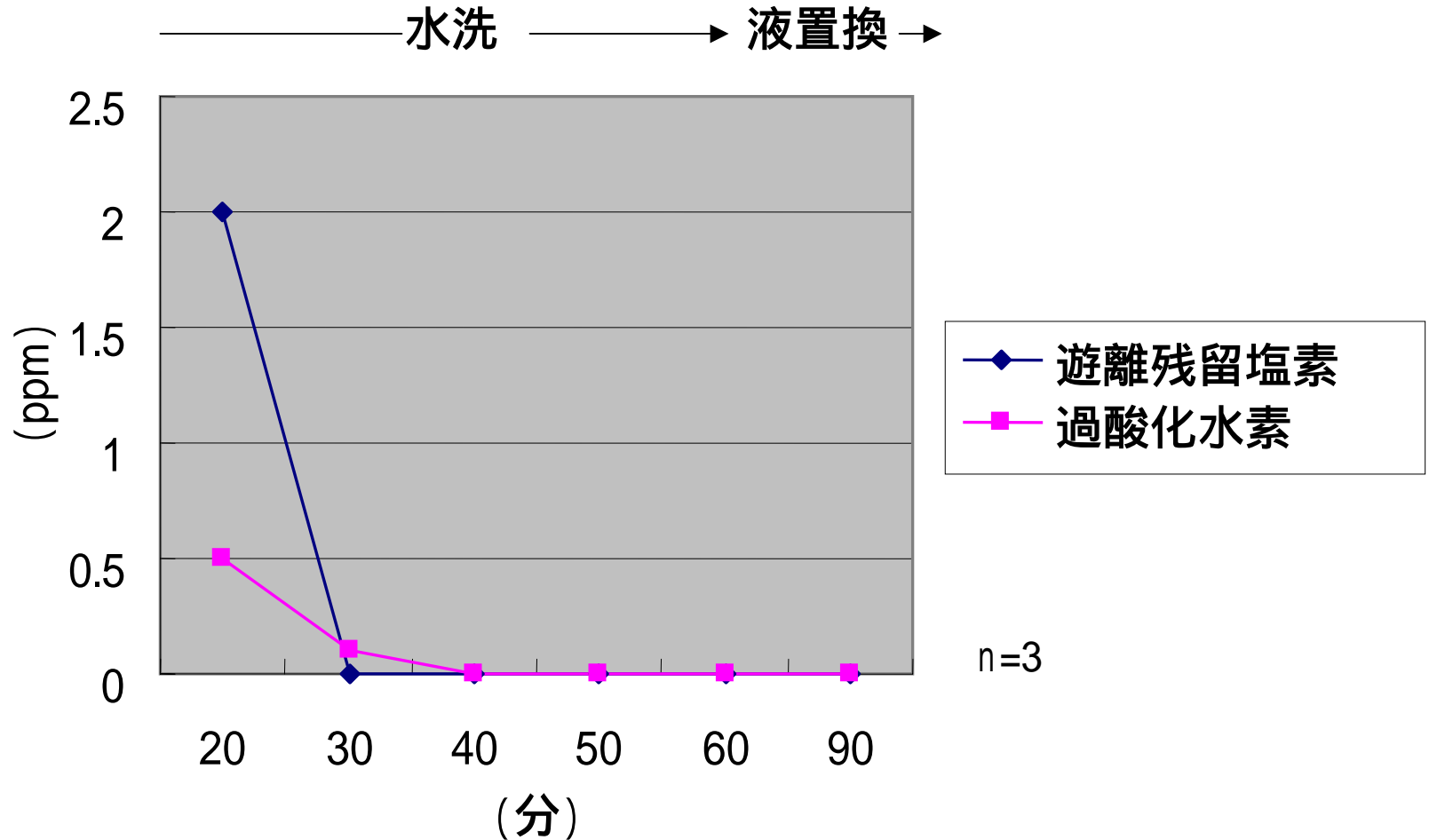
透析液戻り口



(200倍)

(6ヶ月後)

各消毒剤の残留濃度



まとめ

- (1)ET値・生菌数は低値にて管理できた。
- (2)自己診断・金属部品・シリコンチューブに問題は認められなかった。
- (3)当院の場合、消毒剤の残留濃度は水洗40分で測定感度以下となった。

結語

ECO-200とSanacide - EPの併用について短期的な洗淨・消毒効果の確認ができたが、長期的な効果を検証していく必要があると考えられた。